

少年

第417号(1) 令和2年12月(師走)発行



山梨県警察本部
生活安全部 少年・女性安全対策課
甲府市丸の内1-6-1
055-221-0110 内線3082
少年対策官 山岸正人

判断と実行

舞い散る枯れ葉や冷たい風に、本格的な冬の訪れを感じられる頃となりました。一年最後の月、「師走」。今年一年を振り返り、新年を迎える準備に忙しい月になるとともに進学や就職など未来への選択をする時期を迎えています。自分の未来を見つめながら、的確な判断をし、それをなしとげる勇気と実行力を持ち続けていきたいものです。

「ノミ」

犬や猫に寄生するノミ。体長は1mm以下のもので、大きくて9mmぐらいと、非常に小さな虫である。後ろ足が非常に発達していて、通常は自分の体長の約60倍から100倍の高さの跳躍ができるそうだ。跳躍力のある動物、生物はたくさんいるが、ノミはその中でもダントツである。



このノミを使った実験がある。1m跳ぶ力があるノミを高さ30cmのビーカーに入れて透明の蓋をかぶせると、ノミはビーカーから逃げだそうとして何度も何度も跳び上がり、蓋にぶつかっていく。しばらくするとノミは蓋のぎりぎりのところまでしか跳ばなくなり、蓋を外したとしてもノミは30cm以上跳ぶことができなくなってしまう。ノミは、自分の跳べる限界を自分自身で決めたのだ。

それでは、このノミをもう一度、1mジャンプさせるためにはどうすればよいだろうか。それは、ビーカーの中に高く跳べるノミを1匹入れることだそうだ。「跳べないノミ」は「跳べるノミ」を見ることで自分自身を取り戻し、やがて跳べるようになるそうだ。



私たちが過去の経験や自分の思い込みで挑戦しようともせず自分の行動を止めてしまったり、反対に頑張っている仲間や家族の姿を見て、自分の気持ちを奮い立たせたりした経験があるはずだ。この実験は「ノミの法則」といわれている。

人生には、大きな分岐点がある。自分の進路を決めることもその一つ。自分の可能性を信じ、努力を続けること、そしてさらに高められる仲間関係構築、お互いが切磋琢磨し、外に広がる新しい景色を見てほしいと思う。

「楽しい」より「正しい」を上置いて動く

代名詞の「二刀流」をはじめ、道なき道に挑戦する大谷翔平選手。「だれもやったことがないことをやりたい」。その一心で、肉体を鍛え、技を磨き、心を育てることに人生の大半を費やしてきた。圧倒的な心・技・体。その礎になっているが8歳からつけている「野球ノート」。そこには大谷選手の今につながる数々の言葉が綴られている。



例えば小学生時代のページには「一生懸命声を出すこと」「一生懸命走ること」「一生懸命キャッチボールをすること」と書かれている。純粋な野球少年の誓い。読み返すたびに大切な姿勢を思い出すなど過去の言葉が力を与えてくれるという。

ノートには、高校時代の恩師、佐々木洋監督から伝えられた、いくつかの言葉がある。「楽しい」より「正しい」で行動しなさい。これこそがストイックに自分を律する大谷選手の行動規範である。

「自分に制限をかけて行動することが大事。それができる人が大人。誰だって厳しい練習は楽しくない、やりたくない。でも成長のために必要だとしたら、自分から取り組まないといけない。今の自分はまだまだだが、何が「正しいか」を考えて行動しようと思えるようにしている」。

それは野球を離れたところでも同様。生活における行動の一つひとつ、例えば「ゴミ拾い」「あいさつ」「応援される人間になる」「道具を大切に使う」といったレベルのことから「正しく」あろうと心掛けている。



「そのほうがすっきりとした気持ちでゲームに臨める。自分に運が回ってくるんじゃないかと思う。他人がボーッと捨てた運を拾っているというか、知らんぷりして前を通り過ぎて、ゴミに『お前はそれでいいのか?』と呼ばれている気がして戻って拾う。悪いことをするよりは良いことをした方が気持ちがいい」。

「それによってすべてが決まるわけではない。ゴミを見過ごしたからといって、球が遅くなることもない。ただ、内面も含めてベストな自分を作るために大切な要素の一つだと考えている」。

「僕は気持ちが弱い。基本的にマイナス思考。試合前も普通に緊張する。だからこそ不安の裏返しでやれることは全部やっておきたい。日本一の選手になるためには野球の技術だけでなく、私生活も含めて、日本一の取組をしなくてはいけないと思っている」。

「楽しいか」「楽しくないか」は、現代を支配する価値観の一つである。私たちは「楽しい」を基準に行動しがちだが「正しい」という基準をしっかりと心にとめておきたい。出典：大谷翔平「不可能を可能にする120の思考」ぴあ 児玉光雄「大谷翔平86のメッセージ」三笠書房

「人間が1日に行う『判断』は約35,000回」といわれます。小さな日常の判断から始まり、将来を決める重要な決断まで、様々な判断をしています。そんな中で、いつかやってくる人生の大きな決断のために…今、目の前にある一つひとつのことを丁寧に判断し、実行していくことを積み重ねてもらいたいと思います。



年末・年始特別警戒取締り

令和2年12月15日(火)～令和3年1月5日(火) 実施

当県警察では、毎年、年末年始に防犯団体や地域の方々と協力して特別警戒取締りを実施し、凶悪事件をはじめとする犯罪被害防止対策及び少年非行の未然防止対策等に取り組んでいます。子供の問題行動はもちろんのこと、子供に悪影響を与える環境、子供をねらった「声掛け」や「つきまとい」がある場合には、各警察署にご連絡下さい。最高の防犯対策は「防犯カメラ」ではなく、「地域の目」であり、「地域のつながり」です。「おはよう」「こんにちは」…、一言の積み重ねが大きな犯罪抑止力になります。ご協力をお願いいたします。



冬休み中の少年非行防止のために



2020年も残りわずかとなりました。まもなく冬休みがやってきます。例年に比べ、日数は少ないながらも、様々なイベントがあり、大人も子供も、何かと落ち着かない時期になります。

このような中、子供は解放感とちょっとした気の緩みから、様々な誘惑に流されてしまいがちです。日頃から子供の行動に関心を持ち、親子の会話を心がけるのはもちろんのこと、地域でも声を掛け合いながら子供が非行や犯罪に巻き込まれない環境づくりに努めていくことが必要です。

■家庭での指導■

- 家族と一緒に過ごす時間を増やす
- 基本的な生活習慣を崩さないようにする
- 地域の伝統行事に参加させる
- 伝統行事の意味を教える
- 金銭教育をする(お年玉等)
- 携帯・スマホの使用についてルール決める

■学校での指導■

- 冬休みの事前・事後の指導体制を整える
- 必要に応じて、個別指導を行う
- 安全指導の徹底と交通事故等の未然防止
- 1年間の成長を確かめ、新しい年への夢や目標をもたせる
- 正しい判断と誘惑に負けない強い意志を持たせ、非行防止に努める

■地域での指導■

- 地域防犯の意識を高く持ち、安心安全な町づくりのために、地域の目を育てる
- 子供が伸び伸びと活動できる場所と機会を設ける
- 地域に起こった小さな変化を見逃さず、関係機関との迅速な対応を心がける



ネット被害から子供を守るために

子供のスマートフォンの所有率は年々上昇し、低年齢化も進んでいます。それに伴い、「個人情報流出」「不適切な書き込み」「ネットいじめ」「誘い出しによる性的被害」「ネット依存症」など、子供を巻き込む様々なネット被害が大きな社会問題となっています。便利だからという理由だけで安易にスマホを買い与えるのではなく、持たせる前に、目の前の子供の実態や将来を考えながら、家族でじっくりと話し合っしてほしいと思います。

「家庭内でのルールづくり」と「フィルタリングの利用」を

- 1 ネットの利便性だけでなく、危険性についても親子で十分に話し合う。
- 2 持たせる前に、親子で使い方(マナー、使用時間、内容など)についてのルールを決める。
- 3 18歳まではフィルタリングを利用し、危険なサイトへの接続を防ぐ。
- 4 親子での会話を大切に、子供の友人関係を把握するとともに子供のSOSサインを見逃さない。



訂正 10月に発行いたしました「少年」の中で記載内容に誤りがございました。つきましては下記の通り訂正をさせていただきます。ご迷惑をお掛けいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

第415号(1) 令和2年10月(長月)発行 → 第415号(1) 令和2年10月(神無月)発行